令和３年度宮崎県特別支援教育研究連合

知的障がい教育研究部会

－第２回理事会－

議事録

日時：令和３年１１月１２日(金)
午後：２時～午後３時
会場：みなみのかぜ支援学校

司会：小園Ｔ

Ⅰ　開会行事

（１）　　会長挨拶　みなみのかぜ支援学校　川越　俊彦　校長

こんにちは。本日は知的部会第２回理事会ということで、お忙しい中リモートで参加していただきありがとうございます。ご存じかと思いますが、平成２５年度に教育支援資料というのが、文科省から出されたのですが、令和３年の６月に改訂されて、障がいのある子どもの教育支援の手引き、子どもたち一人一人の教育的ニーズを捉えた学びの充実についてということで、６月に発刊になっています。その中で、言われていることが教育相談、それから就学先決定のモデルプロセスを実際の就学にかかる一連のプロセスに沿って、事前の相談支援、就学先決定の手続き、就学後の学びの場の見直しに分けて詳しく書かれています。また、学びの場の見直しに当たって、本人及び保護者との合意形成の取組事例を合わせて紹介されています。また、教育的ニーズの内容を障がい種ごとに、具体化して就学先となる学校、学びの場を判断する際に、重視すべき事項を充実させているところが、大きな特徴です。ぜひ、読んでいただければと思います。それと宮口幸治先生の「どうしても頑張れない人たち」が発刊されています。発達障害等含めて、対応すべき問題、私たちの支援について振り返る貴重な機会になりますので、ぜひ一読いただければと思います。その中で、宮口先生がおっしゃっているのが、頑張れないのは、認知機能の問題だけではない。マズローの要求の５段階というのがありますが、生理的欲求、安全欲求、社会的欲求、承認の欲求のうえに自己実現欲求というのがあり、その４つの欲求の土台の上にあるのが、自己実現欲求になるので、４つの欲求が満たされなければならない。どうしても頑張れないのは、認知機能の弱さを持った人たち、見る、聞く、想像するといった力が弱いために、いくら頑張っても入ってくる情報に歪みが生じてしまって、結果不適切な方向にむいてしまう。そうしているうちに、いくら頑張ってもうまくいかずに失敗を繰り返して、無駄だと感じるようになり、頑張れなくなる。認知機能の弱い人というのは、先のことを想像することが苦手で、大人になるにつれて、褒められる機会が減って挫折経験が増え、ますます頑張れなくなってしまう。また、どんな言葉かけをするかで大きく変わってしまう。頑張れるを支える３つの基本として、安心の土台、伴走者、チャレンジできる環境がある。安心の土台では、家族のありがたみ、苦しみを知ったとき、自分を見捨てない家族の存在を知ったとき、伴走者の存在では、信頼できる人に出会えたとき、大切な役割を任されたとき、チャレンジできる環境では、自分の姿に気づいたとき、人と話す自信がついたとき、勉強が分かったとき、将来の目標が決まったとき等が考えられる。このような環境を整えていくことが大事である。こういったことが書かれています。日向大会でも川上先生がおっし

ゃったように、子どものかたくなさには、大人のしなやかさが必要です。今日は、日向大会の反省も後ほどありますが、学びをしっかり止めずに深めていくというのが、この研究大会の大きな目的になります。どうか、次年度の大会の方向性も後で提案がありますので、忌憚のないご意見をいただければと思います。どうか、よろしくお願い致します。

（２）　　本日の日程、配付資料の確認

・第２回理事会次第
・研究大会ローテンション資料
・R3 年度知的障がい教育研究部会研究大会(視聴者アンケート)
・宮崎県特別支援教育研究連合（以下、県特研連と表記）知的部会研究大会　確認フォーム入力一覧
・R４年度　県特研連知的障がい　教育研究部会役員及び理事 FAX 送付用紙
　計５部

（３）　　今後の流れについて

１．理事会について
第３回目の理事会令和４年２月４日を予定している。
小中学校の理事の先生方には、事務局より一ヶ月前には連絡をする。

２．令和４年度県特研連知的障がい教育研究部会の理事選出について
配付資料の FAX 用紙参照
令和４年度の理事選出について、２月に FAX 用紙を配布、説明予定
確実に来年度の理事の先生に引き継ぎをし、知的部会用 FAX 用紙での返信をお願いしたい。

Ⅱ　令和３年度九特連熊本大会について

当日、Youtube がつながらない等接続の問題があったので、熊本の事務局に伝えて今後に活かしていく。

Ⅲ　令和３年度第１１会知的部会研究大会日向大会

（１）　　大会反省　日向ひまわり支援学校　飯干　知子先生

画面の共有を行いながら、説明を実施。

本研究大会の開催の目的を確認しながら進めた。今回の研究大会のコンセプトとして、日向ひまわりは、学びをとめないという形で設定した。知的障がい研究大会運営見直しのため、休止が２年間、そして新型コロナウイルス感染拡大による各研究大会及び研修の中止が続いていたので、学ぶ機会が激減している。だから、学ぶ場にしよう、学びをとめない、先生方がまた一歩学べるようにと、このコンセプトで実施した。開催の方法として、ホール開催の検討も行ったが、やはり難しかったので、オンデマンドで開催した。今回大きな主題となったが、参加型ではなく、視聴型に変更した。そして、各講師の担当者のみの視聴にとどまらない大会を進めていく上で、この大きな主題となった。主題の趣旨は、様々な校種の先生方と共有することで、本県の特別支援教育のさらなる充実と発展、そして誰もが相互に人格とそして共生社会宮崎へとつなげていくことができる。

おおよその概数で小中学校２６０校、特別支援学校８校の加盟校各学校に発信をした。配信期間を限定したが、好評で見返したいと声があったので、期間を延長した。

今回の研究大会は、講演のみにさせていただいたが、いかがだったか。

研究大会の二次案内を今まで郵送していたものを、特別支援教育課から各市町村教育委員会、各小

中学校へ確実に届くように手続きをした。特別支援学校には、日向ひまわりよりメールで送信した。その他、知的障がい研究部会のホームページにも案内を掲載した。今回、学校単位での申し込みとして、集計の簡素化を目指した。なぜなら、今回の研究大会の目的が、特別支援教育担当者のみでなく、学校内での特別支援教育の推進を図ることを目的とした経緯がある。また、知的部会にお願いして、知的部会用のメールアドレスを取得手続きを行った。そうすることで、業務の円滑化を図ることができた。６月の理事会では、一次案内が届いたところは２８校だったが、最終的には１００校、約３００名超の方が参加した。また、６０％の学校が校内研修として実施していた。校内全体での特別支援教育の基本的な考え方を学ぶ機会となった。知的障がい教育研究部会所属校２７０校で、昨年度提案したときは、目標を７０％と高く掲げていたが、６月の理事会で３０％を目標にすると宣言した。しかし、今回１００の団体、９３校と７関係機関で実施ができた。アンケートの全ての意見を理事会の先生方へ送付したので、ゆっくりご覧の上、意見をいただきたい。

本来ならば、県北地区の学校で実行委員会をすることになっていたが、現在の状況で他校との会議実施は難しい、また研究大会の内容が複雑ではないため、分担する業務が少ないだろうと今回の研究大会は、実行委員会は自校のみの運営で開催することができた。

理事会の先生方の役割として、所属校の入力、校内職員への周知をお願いした。そして個人研修やグループ研修ができるように環境を整えてほしいとお願いをした。その中で課題がみえてきた。小中学校は、特別支援教育研究連合の存在を３割は知らないと返答があった。もう少し周知できるような働きかけが必要だった。また、特別支援学校においては、視聴した中の５割が本校だった。各学校で研修を企画する校務や全体研修を行えなかったという声があった。

夏の大会に関して、先生方のたくさんのご協力に感謝している。

この状況で思い切った企画をさせてもらった。小中学校の実情を踏まえながら、特別支援学校と特別支援学級の先生方の目線だけの企画運営だけでなく、本研究部会の目的達成になるよう企画運営を行った。県内の特別支援教育に携わる方々は、年々増えており、変化もしている。その中で、組織そのものを知ってもらうこと、そしてこの研究会に参加すれば、学べるということを知ってもらうことが、今後の課題である。理事会の先生方には、ご協力いただき、深く感謝している。日向ひまわりの職員は、今回の研究主題を十分満たすことができた。また、忌憚のないご意見をよろしくお願いしたい。

〈意見〉延岡東小学校　東木場先生

小学校では、特別支援の研修を組んでいて、授業に使えることができた。研修内では時間が足りず、続きは個別に見てくださいという形をとった。内容もとても良くて大変勉強になった

Ⅳ　令和４年度第１２会知的部会研究大会都城大会

〈説明〉研究大会ローテンションについての説明　小園Ｔ

研究大会ローテンション資料参照

（1）　　大会概要　都城きりしま支援学校　片平　慎二先生

テーマは「特別な支援を必要とする児童生徒の進路支援実現に向けて」として進路にスポットを当てて実施予定である。

小中学校の先生方、特別支援学級の先生方は、支援学校が進路についてどのように捉えているのか、現在受け持っている児童生徒がどういう進路をたどるのか、保護者の方への説明がしやすくなるので

は、とのことでこの題材を設定した。

内容としては、本校が行っている課題研究の中で、職業コースに取り組んでいる。特別支援学校高等部職業コース設置に向けた取組ということで、今年度の研究の発表を計画している。その後、パネルディスカッションを学歴から就職まで、幅広く捉えた視点で行う予定である。

実施方法は、メイン会場をきりしま支援学校、各支援学校をサブ会場とさせていただく。小中学校の先生方は、各地域の支援学校に集まっていただくという形で考えている。課題として、各支援学校のキャパシティの問題があるので、これらも踏まえて忌憚のない意見を聞きたい。

研究大会の日時は、R４年７月２９日、午前中は児湯るぴなす支援学校で、坂井先生の講話を行っていただく。

〈質疑〉延岡しろやま支援学校　水野先生

スライドの説明では、延岡地区とあるが、日向、西臼杵も含まれるのか。もし、そうなると規模が大き
くなるが、工夫次第でなんとかなるのでは。
→含まれる。

〈質疑〉小林こすもす支援学校　藤井先生

小中学校から参加されるメンバーですが、対象となるのは特担の先生方だけなのか、コーディネータの先生方等も含まれるのか。希望があれば、進路の先生方も参加できるのか。それによって、参加人数が変わってくるのではないか。
→特別支援学校教諭、小中学校の知的の支援学級担任が会員なので対象になる。持ち帰り、校内研修という形で全職員へ伝えるということは、十分可能である。
各支援学校とホストである、きりしま支援学校をつないでということに関しては、各支援学校のキャパの問題もあるし、あるいは、遠方の小中学校が遠距離で集まることが難しいということも想定される。この件に関しては、各支援学校のキャパの問題と小中学校のどこかとホストをつなぐということも考えられる。今後きりしま支援学校と検討していく。

〈質疑〉児湯るぴなす支援学校　松下先生

本校は、午前中が県特研連のホストになる。受け入れが難しいので、みやざき中央支援学校も西都児湯の小中学校を受け入れるという形になっているのか。

→みやざき中央支援学校が西都児湯地区、みなみのかぜ支援学校が宮崎地区と現段階では考えている。

〈意見〉小林こすもす支援学校　藤井先生

形態が学部別に設置されているので、会場は高等部になる。キャパが心配だが、片平先生と相談しながら進めていこうと思っている。

〈確認〉宮崎東小学校　富永先生

午後の知的部会に関して、障がい種別の分科会も午後同時開催になる。小中学校においては、情緒障害クラスもかなりの数になる。希望があれば、知的部会に参加できるように柔軟に対応していただきたい。
→障がい種別の学校で、行うという方向で県特研連も動いている。午後は、障がい種別の研究会になっているので、情緒の学級担任は、情緒の研究会に参加する。

〈質疑〉児湯るぴなす支援学校　藤井先生

ローテンションでは、令和４年の作品展示が本校だが、どうすればいいのか。

→このローテンションは、新型コロナウイルス感染症が流行る前に計画をしたものなので、きりしま支援学校が作品展示は行わないということになれば、必要なくなる。企画運営校から、必要不必要を提示していただく。

〈質疑〉延岡しろやま支援学校　水野先生

るぴなすがリモート会場になりながら、きりしま支援学校で作品展示というのは難がある。それぞれがリモート会場になっているので、１つの会場でやっていた今までの流れでは難しくなってきているのではないか。

→今後、リモートでつなぐ開催となれば必要なくなるので、今後検討していく必要ある。

〈質疑〉延岡しろやま支援学校　水野先生

資料作成に関しては、各リモート会場に必要な部数のみ印刷することになる。よって各支援学校で行う印刷代など請求のあり方、予算を分配していただく必要がでてくるのではないか。

→細かな部分に関しては、県特研連と連絡調整しながら、今後検討していく。どのくらい各会場に人数が入れるのか合わせて検討が必要。

〈意見〉日向ひまわり支援学校　飯干先生

今大会は東臼杵エリアの学校２３校参加した。来年度も本校でリモート会場１つ置くとなったときに、同じ人数参加するとなれば会場がない。１つの部屋で対応するのではなく、教室を２つ使うなど工夫をして、対応をしていきたい。オンラインでつなぐ配線が２、３カ所になる可能性がある。回線が増えることをどの学校でも想定しておかなければならない。日向ひまわりも対応を考えている。また、年間の計画の中に、日程の挿入をお願いしたい。

Ⅴ　連絡事項　小園ｔ

来年度の研究大会について各支援学校でどのくらいの人数の受け入れが可能か、オンライン回線が何カ所あるのか、年内に事務局みなみのかぜ支援学校に連絡をお願いしたい。

Ⅵ　閉会行事

（１）　会長挨拶　日向ひまわり支援学校　種子田校長

第２回理事会は、第１回理事会の時にオンライン開催ということで了解を得ました。今回の夏の研究大会にあたってのお礼を申し上げます。本校担当の飯干先生から説明がありましたが、たくさんの先生方のご参加をいただくとともに、理事の皆さんには、案内等ご協力をいただきましたことに感謝申し上げます。当初、コロナ禍において、研究大会をどうするかというところがスタートで、中止が相次ぐ中で、学びをとめないということで実施した研究大会でした。色々ご感想をいただいた中で、私たちも大変励みになるとともに、この研究大会を通して私たちも勉強になりました。また、新たな課題も見つかりましたので、今後に活かしていただければと思います。本当にありがとうございました。県特研連自体が、ご意見をいただきました通り、来年度新たなあり方で研究大会が開かれます。まずは、やってみないと分からないので、校種の方で、大会を開いて、反省で課題や成果をいただきながら、この県特研連がよりより方向にいけるといいかなと思っております。皆様方のいろんなご意

見が、今後の県特研連の充実につながると思いますので、忌憚のないご意見をいただきたいと思っております。また、この知的部会におきましても、色々工夫をしながら、更なる充実に努めていきたいと思います。また、今回研究大会の組織が昨年変わりましたので、急遽，都城きりしま支援学校が引き受けてくださって準備を進めております。ですので、短時間での準備ということになりますので、皆様方ご協力のほうよろしくお願いしたいと思います。また、第３回の理事会がありますが、今後ともよろしくお願い致します。本日はお疲れ様でした。ありがとうございました。